

東京大学 工学部 修士一年 中谷 勝也さん

僕は大学4年の卒業旅行で中国に行くまで正直海外には全く興味がありませんでした。でもその旅行で「日本とは違う」という当たり前のことを初めて実感し、異なる文化、取分け“人”に興味をもつようになりました。そして「より多くの“人”に接するために欠かせないのは英語だ！」と思ったんです。そんな僕が2ヶ月間フィリピンの英語学校 CPILS に滞在し、体験し、そして学んだことを紹介したいと思います！！

#### ◆ 僕が CPILS を選んだ訳！

実は短期留学を思い立った当初はその候補地として「米・英・豪」を考えていました。けれどそれらの学校を調べていくと一つの不満点が僕の前に現れてきたんです。それは「日本人が多すぎる！！！」ということです。日本人率が3~4割という学校が多く、さらに「レベル分けして、レベルの低いクラスに日本人は集中するだろうから…」ってなことを考えてゆくと、本当に英語の勉強ができるんだろうかというちょっと極端な心配さえ抱くようになってしまいました(笑)。

そんなとき日本人割合の小さい CPILS (ほとんどの学生が韓国人) をたまたまインターネットで見つけたんです。正直その時は「なんでフィリピンで英語???’’って思っちゃいました。少し調べて「フィリピンは約80もの言語が存在する多言語国家で、英語が第二公用語」だと分かったんですが、この時点でも「フィリピンで英語はないかなあ」って思っていました。けれどアジアから留学してきている大学の友人数人にフィリピンの英語の印象を尋ねてみたところ「きれいな英語」、「アメリカ英語で聞き易い」という思いがけない答えが返ってきました。

で結局、フィリピン留学に踏み切ってみました！

フィリピンを選択したことに対する友人の疑問、治安を心配する家族からの反対があったことは言うまでもないですが、一番年齢の高い祖母だけが賛成してくれたことは驚きであると共に、僕の支えになってくれました。

## ◆ いざ！フィリピンへ！！！！

僕が出国した時期は夏休みには少し早い時期ということもあり成田の集合場所にたどり着いてはみたものの、その日 CPILS に向かうのはなんと僕一人だけでした！（実は集合場所が見付からず、おまけに集合時刻に遅刻気味ということもありかなり焦りました。だってそれらしき集団が見付からなかったんで…。見付からない理由が「僕しかいないから！」という事実気付くまでにけっこうな時間がかかりました）

自分で日本人の少ないところを選んだ分けですがこの時、正直「少なすぎやろ！」とつつこみたくなりました…がつつこむ相手がいませんでした…。かくして飛行機に乗り込み、フィリピンに近づくに連れ、楽しげな気持ちはどんどんしぼんでゆき、不安がそれに反比例して大きくなっていきました。そして大きな不安と少しの期待を胸に無事フィリピンに到着！！！！ CPILS からの迎えのバンに乗り込み CPILS へ！この時バンの中で「もしかして到着間もなくして僕は誘拐されてしまったのではないか！？」という不安にさいなまれましたが、無事、午後9時に CPILS にたどり着いたのでした。

## ◆ My name is Albert~!!!

到着した次の日、ガイダンスルームで必要事項を用紙に記入しました。その時見慣れない“English Name”という欄を発見しました！迷った挙句、少し恥らいつつ“Albert”と書き込んでしまいました。後で分かったのですがいわゆる English Name を付けていたのは日本人では僕だけだったようです。しかしこれが韓国人の友人を作る際に非常に役立ちました。いつもこう自己紹介してました。

“ My name is Albert. Because I like Albert Einstein~!!!”

アインシュタインという世界的に有名な人から名前を取ったこともあり、すぐに名前を覚えてもらうことができたんです。友人が増えるに連れ、CPILS での生活が充実したものになっていきました。CPILS に行かれた際には恥ずかしながら、“English Name”をお付けになることを強く強くお勧めします！！！！

## ◆ そして授業開始！！

2ヶ月の滞在で初めの一ヶ月間は1:1、1:4、1:8、TOEIC コースの四つ、残りの一ヶ月はこれらに加え Night Class(1:1) をとりました。それぞれの授業についての感想はこんな感じです。

『1:1』…先生はサングラスの似合う男性で、いつも冗談ばかり言っているのですが授業で扱う題材は重厚なものでした。取分け「死」に関するテーマが多かったのが印象的です。お姉さんが医師をされているということも関係していたのかもしれませんが。テーマが個人の哲学にまで及ぶものであっただけに、授業というより討論に近いものになることも多々ありました。しかし討論となったことで英語を本来あるべき姿、ツールとして使うことができたことがこの上ない貴重な経験でした。

『1:4』…先生は非常に頭の切れる印象の女性で、他の先生から聞いた話では以前大きな会社で働かれていたそうです。1:4の授業は「話す」と「聞く」のバランスがよく、一番の収穫は「如何に日本人(自分)の英語の発音が拙いか！」ということに気付くことができたことです。具体的には日本では外国の人にも通じていた発音がフィリピン人の先生にも、韓国人の友人にも通じないんです！正直ショックでした…。理由は日本で日本にいる外国の方々には日本人の英語に慣れているだけで、慣れていない人には日本人の英語は発音が非常に曖昧で通じないということでした。これは日本人の割合の少ない学校を選んだからこそ痛感できたことだと思います。非常に満足しています。

『1:8』…この授業は途中で別の1:8の授業に変更しました。理由は最初の1:8の先生からは授業に対する意図が伝わってこなかったからです。正直退屈な授業でした。そのため2週間で変更しました。次の1:8の先生の授業からは「普段の何気ない出来事をより英語的な表現を用いて伝える」という明確な意図が伝わってきました。学生同士が昨日、又は週末の出来事を伝え合うという非常に楽しいものでした。この授業のメンバーで何度か先生もふまえて食事にも出かけたりました。いい思い出です。

『TOEIC コース』…この授業は先生の学生のモチベーションを高める技術が素晴らしかったです。一見(一聞?)の価値あります! もっとも時間が経つのを忘れた授業でした。誰でも参加できる授業で、多くの友人をこの授業を通して作ることができました。

『Night Class(1:1)』…1:4のクラスで発音改善の必要性を感じ、発音を改善するためにこのクラスをとりました。先生は二ヶ月の滞在中で僕が一番気の合った方で、毎回延長してくれ、色々な話をしました。精神的に非常に成熟した方で、自分自身を客観的に、深く分析されている点に感心させられました。最後の授業の日、わざわざ思い出をつづった手製のアルバムとマグカップをプレゼントして頂きました。このアルバムとマグカップは僕の宝物です。

全体を通した授業の印象まとめてみると

## 1. けっこうきつい!

先生にもよりますが、日本人の苦手とする、自分の意見を主張することが頻繁に求められます。また一日に占める授業時間の割合が高く、正直楽ではありませんでした。

## 2. 先生の質が高い!

これにはフィリピンの「職不足」という国家事情が大きく影響しています。フィリピンでは外国人向けの英語学校の講師は非常に人気のある職業で、自ずと先生の質が高くなるようです。幅広い分野出身の、熱心に勉強された方々が英語を教えていると感じました。

英語を勉強する意志を強くもっている人に CPILS は合っていると思います。大変ではありますが、誤解を恐れずに言うと「楽しいだけの留学」より遥かに得るものがあると思います。

加えて個人的には韓国の人たちと僕たち、日本人が抱える歴史的問題についても積極的に理解する姿勢を有している人に来て頂きたいと強く願います。英語以上に得るものがあります。

#### ◆ 思い出色々

<僕が幹事で国際交流会開催！？>

韓国人男子学生から日本人女子学生は非常に人気が高く、韓国人の友達からの「日本人の女の子を紹介してくれ！」という熱い思いに答えるべく、総勢 20 人を越える食事会を開催しました！このときのレストランにたまたまテレビ局が来ており、何やらインタビューされた後、レストランの CM を作りたいから全員で出演してくれという話になりました。そしてそのままフィリピンでメディア・デビューしてしまいました(笑)。

<ダンスコンテスト出場！！！！>

ある日お酒も入りいい具合になった後セブで一番大きい、約2千人収用のダンスクラブに遊びに行ったときの事です。そこでは毎週金曜日にダンスコンテストが開催されているんですが、不幸なことに一度もダンスなんて踊ったことのない僕が 1000 人を越える観衆の前でダンスを披露することになったんです(泣)。

もう一度言います！僕はこのコンテストまでダンスなんて一度も踊ったことなかったんです！正直クラブを生で見るのも初めてでした。このとき一緒にクラブに来ていた韓国人の友人の一人が僕に言いました。

「オレは先週このダンスコンテストでチャンピオンなった。だからオレはここではちょっと有名なんだ。男は勝たなきゃだめだ！」

僕はただただ関心して「すごいなあ」と酔っ払った頭で漠然と思っていたのですが、次の一言で一気に酔いが覚めました！

「オレはお前にもチャンピオンになって有名になってほしい！お前にならできる！」

僕は必死でダンスなんてしたことないから出たくないということを伝えました。しかし…

「本能に従え！！それにもうオレがエントリーしといた！」

“時既に遅し”でした…。そして間もなく僕はタキシードを着た、ごついウエイター二人にステージ上まで連れていかれ、フィリピン女性とカップルにさせられ、そしてセクシーダンスを踊るように言われました(もうどうでもよくなりました)。僕がステージ上で痛々しいダンスを披露したことは言うまでもありません。ご想像にお任せしません、想像しないでください(笑)。

< 韓国人学生とのルームシェア、そして竹島、靖国神社問題… >

CPILS に滞在し始めて1ヶ月がたとうとした頃、突然韓国人の友人から「ルームシェアしよう！」と言われ、即承諾しました。このルームシェアがきっかけでより深く韓国人学生と付き合いようになりました。

ある別の友人が正直に「日本人のことは好きだけど日本に対しては少し反感がある」と告白してくれました。また日本に対する反感の大きい学生も少なからずいるということも教えてくれました。複雑な気持ちでしたが、ほんの数十年前日本人が多くの韓国人の人々にしたことを考えれば当然の感情であると理解できました。また友人として正直に告白してくれた、その誠実さに胸を打たれました。僕が日本に帰る日空港まで見送り、涙してくれたのも彼でした。

CPILS では多くの韓国人学生と知り合いました。彼らの多くは新しい世代は歴史を踏まえながらもお互いに理解し合わなければならないという気持ちで日本人学生に接してくれていました。そのことに今改めて感謝しています。

CPILS での滞在はもちろん僕の英語力、特に話す力を養ってくれました。しかし韓国人学生との交流が英語以上のものを僕に与えてくれました。僕の人生にとって本当に貴重な体験でした。そして多くの方に僕と同じものを感じ取ってもらえたならこれからの日本と韓国、しいては世界にとって素晴らしいことだと思っています。